

未来世代とともに地球を問いなおす

地球の持続可能性を確保し子供たちの Well-being を保障する
——SDGs「動物かんきょう会議」から「Ask the Earth」へ

ヌールエ デザイン総合研究所 代表
伊豆ユネスコクラブ 副代表幹事

筒井 一郎

地方から始まる教育イノベーション

2018年、山口県宇部市は内閣府から「SDGs 未来都市」に選定された。市の理念である「共存同栄・協同一致」は、個人の自立、社会への積極的関与、そして多様性の尊重を基本に据えている。この理念を体現する象徴的な取り組みが、2018年に始動した教育プログラム『せかい！動物かんきょう会議』である。

本プログラムの特徴は、子どもたちが「自分以外の視点(動物の視点)」から環境問題を考えるというユニークなアプローチにある。国籍、民族、性別、世代といった境界を超えて「他者の存在」を感じ、気づき、共に未来を生きる力、すなわち想像力と共感力を育むことを目的としている。知識の習得にとどまらず、「感性」と「論理」とを往復する体験対話型のワークショップを通じて、共感力・創造性・思考力といった非認知能力を育む教育メソッドとして、高い評価を受けている。



「せかい！動物かんきょう会議」での発表風景



共創が育った「宇部モデル」

2022年、宇部市の第五次総合計画において、本プログラムは「次世代人材育成の中核施策」として明記された。「教室」「動物園」「全体会議」という三層構造に加え、大学生や市民が関与するインストラクター制度を整備することで、自治体・教育機関・市民が三位一体となって運営する体制——「宇部モデル」——が確立された。

宇部モデルの全体構成図



これまでに150人以上がインストラクター研修を修了し、2025年には事業開始から8年目を迎える。現在は、初期から関わってきたメンバーを中心に事務局を構成し、約20人の市民インストラクターが、市内の小・中学校を対象に、延



宇部モデルのインストラクター